

聞こえと言葉の
発達の一部を
月齢ごとに
書き出しました

- 0ヵ月 大きな音がすると驚いたり、ビクッとする
- 2ヵ月 話しかけるとアーとかウーと声を出す
- 4ヵ月 玩具やテレビなど日常の音に関心を示す
- 5ヵ月 目覚まし時計を耳元に近づけた際、コチコチという音に振り向く
- 10ヵ月 「ママ」「マンマ」「ネンネ」など人の言葉を真似する
- 1歳半 意味のある単語をしゃべる

田中・進藤式乳幼児聴覚発達チェックリストより引用

難聴とは——

難聴とは、音が聞こえにくい、聞き取りにくい状態のことです。生後 1 か月以内、または出産後退院する前に聞こえの検査を受けることをお勧めします。

自分で訴えることができない小さなお子さんの場合、周囲の大人が聞こえの小さなサインに気づいてあげることが早期発見につながるのです。

耳鼻咽喉科のある総合病院・専門医療機関

前橋赤十字病院	前橋市朝日町3-21-36	TEL.027-224-4585
群馬中央総合病院	前橋市紅雲町1-7-13	TEL.027-221-8165
総合太田病院	太田市八幡町29-5	TEL.0276-22-6631
伊勢崎市民病院	伊勢崎市連取本町12-1	TEL.0270-25-5022
桐生厚生総合病院	桐生市織姫町6-3	TEL.0277-44-7171
館林厚生病院	館林市成島町262-1	TEL.0276-72-3140
群馬県立小児医療センター	渋川市北橋町下箱田779	TEL.0279-52-3551
富岡総合病院	富岡市富岡2073-1	TEL.0274-63-2111

群馬大学医学部附属病院耳鼻咽喉科 難聴児支援センター

〒371-8511 群馬県前橋市昭和町 3-39-15 TEL.027-220-7111 (代表)

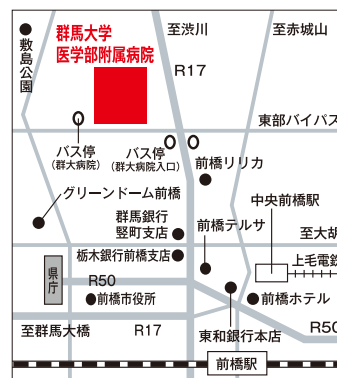
診療のご案内 外来診療日 平成24年4月1日現在

初診の方は紹介状をお持ちになって、月・火・木・金の10時30分までにご来院ください

	月	火	水	木	金
8:30 ~10:30	初診 (紹介者のみ)	初診 (紹介者のみ)	専門外来	初診 (紹介者のみ)	初診 (紹介者のみ)
8:30 ~11:00	再診	再診		再診	再診
13:00~	専門外来 (予約者のみ) 小児難聴 補聴器	再診指定検査 (予約) 外来手術 (予約)	専門外来 (予約者のみ) 両親講座 (難聴)	専門外来 (予約者のみ) 人工中耳 人工内耳	再診指定検査 (予約) 外来手術 (予約)

交通のご案内

駐車場が混雑しますので、なるべく公共交通機関をご利用ください。



●バスご利用の場合

- ①(JR 前橋駅北口 2 番) 群大病院行き(中央前橋駅経由もあります)
 - ②(JR 前橋駅北口 2 番乗り場) 群大病院経由南橋団地行き
 - ③(JR 前橋駅北口 3 番乗り場) JR 群馬総社駅行、総合スポーツセンター行き
 - ④(JR 新前橋駅東口バス乗り場) 群馬大学荒牧行、総合スポーツセンター行き
- ※詳しくはバス会社でご確認ください。上記のほか高崎駅から群大病院行きのバス、JR 沼田駅から群大病院行きの高速直通バスがあります。

●お車ご利用の場合

- 駐車場…はじめの 30 分無料
- ①大学の敷地内では、整理員の誘導に従ってください
 - ②路上駐車は絶対にしないでください。外来棟正面玄関前ロータリー付近は、緊急車両やバスの運行に支障が生じます。

特定非営利活動法人 難聴者支援センター

聞こえと
言葉の発達のために
早めに
聞こえの検査を
受けましょう



難聴児支援センター

難 | 聴 | 診 | 断 | の | 流 | れ

産 院

新生児聴覚スクリーニング検査

脳波の測定などにより、日常生活で見られる聞こえの様子だけではわからない、難聴の可能性を発見できます。

AABR

ヘッドホンで音を聞かせて脳波を測定し、音に反応しているか検査します。

OAE

小さなマイクロフォンを耳の中に入れて音を送り、その音に対する内耳の反応を測定します。

難聴の疑い (リファール)

耳鼻咽喉科のある総合病院

年齢に応じた精密聴力検査で、 難聴の有無・程度を判断

新生児聴覚スクリーニング検査を受けていないお子さんにもお勧めします。なるべく早めに受診しましょう。

耳鼻咽喉科のある総合病院の詳細は裏面をご覧ください

精密聴力検査異常

群馬大学医学部附属病院耳鼻咽喉科 難聴児支援センター

再度、精密聴力検査を行い、
最終的に難聴を確定

精査と療育

難聴の
疑いが低い
(パス)

経過観察

生まれた後でも難聴が発生することがあるので、日常生活に注意しましょう。

精密聴力検査正常



早期発見が
大切な
理由

聞こえは言葉の
発達にとって重要です

耳の聞こえの障害は、「見えない」障害のために、気づかれにくい特徴があります。また、「言葉が聞き取りにくい難聴」があると、耳からの情報が不足し、話し言葉が遅れたり、親子の円滑なコミュニケーションに支障を来します。

乳幼児の早期に難聴に気づき、専門機関で適切な難聴治療や言葉の指導を受けることで、話し言葉の発達を促し、親子の円滑なコミュニケーションの形成ができるのです。

難聴児支援センターとは？

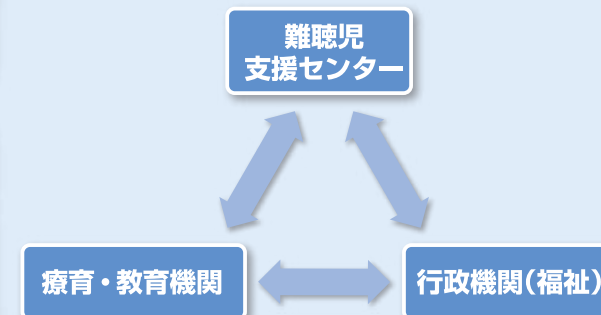
「難聴児支援センター」は、難聴児に対する適切な療育や子育て支援を行っています。

難聴児支援センターの診療・活動内容

- 1 精査 ● 難聴、言葉の遅れの精査
- 2 療育 ● 聴覚管理、聴覚活用
● 難聴児のご家族への子育て支援
● 難聴児のコミュニケーション・言語指導
● 人工内耳の相談

地域との連携

地域の機関と連携し、情報交換をしながら療育を行っていきます



両親講座(ホームトレーニング)

両親講座では、難聴の種類、補聴器の扱い方、子どもとのコミュニケーションの取り方や言語発達などについてお伝えします。子ども(難聴児を含む)の教育は、家庭を中心とし、ご家族とのより良いコミュニケーションを通して行われると考えています。そのため、ご家族の精神的安定を図り、難聴児に対する理解を深めていただきたいと思います。

開催日

毎月第2水曜日／16:00～17:30／全5回

内 容

- 第1回 子育て～家庭の重要性～／難聴の種類と聞こえの関係
- 第2回 オーディオグラムの読み方／聴覚発達
- 第3回 補聴器と人工内耳
- 第4回 言語発達
- 第5回 保護者の体験発表／難聴児の学校教育と将来